

(略) 大正8〜9年は水害の連続で、常呂全体の農家は常呂を離れ、仁頃とか洪水のない地を見つけたり、太茶苗を離れ、水害のない地方に回って皆ちりぢりに分散していきました。

私らは太茶苗から今の福山に移りました。大正11年の春でした。私が小学校4年生の時です。当時、幌内教授場は1年から6年まで24人、先生は1人で杉野貞義先生でした。当時、学生服はなく着物でした。冬はモンペ、半天という姿で、スキーは買ったものではなく自分で木を割り、削り、足を入れて皮を打ち付け、つかけて山を歩いたものです。今のスキーからすれば本当によくはいて歩いたと驚くばかりです。

そんな時代に開拓してきた。当時、常呂町には堤防もできていない。常呂川は年ごとに洪水、山火事がある。開拓は大木を火で焼いて処理する方法しかなかったのです。いろいろの苦節に耐え、現在に至るまで苦節70年、私は10才の頃からプラオで畑を耕しましたが、頭上にプラオの手で握るところがあるのです。そんな格好で耕せるはずはないのですが、私らの時代はそうだったのです。

大正15年12月25日、大正天皇が崩御せられ、その日は私の思い出になる日でした。それはストーブを付けた日でした。常呂の鍛冶屋に私が取りに行き、夕方、できたてのストーブを付け、晩6時頃付け終わりました。皆、煙で悩まされることもなく、ストーブは煙たくなくていいねという母の声でした。私が川沿尋常高等小学校卒業の年のように記憶しています。その時に住んでいたのは、太茶苗から幌内チエトイ熱田農場、今の福山19号から23号幌内でした。沢には可児只次さん、高橋楠一郎さん、岩本秀宗さん、大江典四郎さんの4軒でした。(略)